

製品名: SphK2 (リン酸化 Thr614) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05461

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	SPHK2
別名	SPHK2; Sphingosine kinase 2; SK 2; SPK 2
遺伝子 ID	56848.0
SwissProt ID	Q9NRA0
免疫原	抗血清は、Thr614 のリン酸化部位周辺のヒト SPHK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 580-629

背景

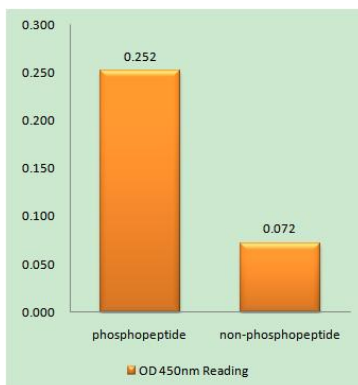
この遺伝子は、スフィンゴシンをスフィンゴシン 1-リン酸にリン酸化することを触媒する 2つのスフィンゴシンキナーゼアイソザイ

ムのうちの1つをコードしています。スフィンゴシン 1-リン酸は、遊走、増殖、アポトーシスなど多くの細胞プロセスを媒介するだけでなく、血管新生や腫瘍形成を促進することで、いくつかの種類の癌にも関与しています。コードされているタンパク質は、乳癌の増殖と化学療法抵抗性に関与している可能性があります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2011年8月]、代替製品：一部のアイソフォームについては実験的確認が不足している可能性があります。触媒活性：ATP + スフィンガニン = ADP + スフィンガニン 1-リン酸。触媒活性：ATP + スフィンゴシン = ADP + スフィンゴシン 1-リン酸。補因子：マグネシウム。機能：スフィンゴシンのリン酸化を触媒し、細胞内外の機能を持つ脂質メディエーターであるスフィンゴシン 1-リン酸 (SPP) を生成します。D-エリスロ-ジヒドロスフィンゴシン、D-エリスロ-スフィンゴシン、および L-トレオ-ジヒドロスフィンゴシンにも作用します。類似性：DAGKc ドメインを1つ含みます。、

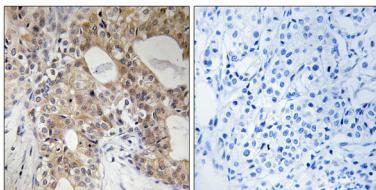
研究分野

スフィンゴ脂質代謝;カルシウム;VEGF;Fc ガンマ R を介した食食作用;

画像データ



SPHK2 (リン酸化 Thr614) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



SPHK2 (リン酸化 Thr614) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。